

課題名：梨ジョイント栽培と新品種による団地再生  
所属名：西部農業改良普及所

### 〈活動事例の要旨〉

米子市稲吉集落の大蓋梨団地は年々高齢化により廃園が増加している。そこで、団地内の廃園を新技術のジョイント栽培と新品種「新甘泉」で再生するよう集落総会を通じて働きかけた。その結果、新規栽培者3名を含む8名の入植希望があり、1.2haを再整備し、ジョイント・網掛け栽培を中心とした団地として再生することとなった。

## 1 普及活動の課題・目標

### (1) 背景と課題

#### ア 背景

米子市淀江町稲吉集落は米子・あいみ生産部の梨栽培面積の約1/3を占め、選果場の中心的な産地として支えている。

しかし、年々高齢化により面積が減り梨団地内に廃園が増えてきた。

平成30年、園主の怪我により稲吉の梨団地の中で約30aが伐採された。その跡地に同集落内の親元就農希望者1名が就農する意思があったので、これをきっかけに事業を活用して集落内で団地再生に取り組むよう働きかけた。

#### イ 課題

これまで普及所は梨生産者に対して「新甘泉」を中心とした新品種への改植、ジョイント栽培や網掛け施設による省力化栽培を振興してきた。平成31年には管内の「新甘泉」は4.7ha、ジョイント栽培は14件2.4haとなった。

しかし、廃園となる面積を補うまでには至っていなかった。廃園を減らし、団地を維持するには、働きかける対象を既存の梨生産者以外にまで広げる必要がある。

そのため、集落内の兼業農家や非農家にジョイント栽培、新品種の有利性を説明し、新規就農者を確保していかななくてはならないと考えた。

### (2) 普及活動の目標

- ・新品種「新甘泉」、新技術ジョイント栽培を広くPRし、新植改植をすすめる。
- ・果樹産地の維持のため、廃園を再整備してジョイント栽培や網掛け栽培を推進する。
- ・新規就農者を集落の中から掘り起こし、梨団地を再生するとともに集落の活性化にもつなげる。

## 2 普及活動の内容

### (1) ジョイント栽培の普及

・管内の先進的にジョイント栽培に取り組まれた優秀園をモデル園として新梢管理等の管理指導を行い、指導会や視察を通して紹介し普及活動をしてきた。

・平成26～30年度は西部普及所と大山普及支所が合同してジョイント栽培研修会を開催した。

・平成31年度からはジョイント栽培に取り組む生産者が多くなったため、それぞれの普及所管内でジョイント研究会を立ち上げて研究会を開催し普及を図っている。



写真1 ジョイント研究会

・就農予定者(団地入植予定者を含む)に機会をつくり、積極的に参加を呼びかけ植栽前からジョイント栽培について栽培技術を習得してもらう。また、他のジョイント栽培者との交流を深めてつながりを作れるよう働きかけた。

## (2) 現状把握

- ・平成 28.29 年度に JA 鳥取西部が事業主体となって作った地域プランに沿って全生産者にアンケートをとり今後の栽培予定、後継者の有無、農地の貸し出し意向等について調査した。
- ・アンケート結果を平成 30 年 5 月に調査結果を生産部役員会に提示し、梨園の維持、新規就農者確保に向けた取り組みについて意見を出してもらった。
- ・平成 30 年 4 月に稲吉地区の 5 つの梨団地について全園の作付け状況を調査し、ほ場地図を見える化して団地生産者とともに栽培状況を確認した。

## (3) 事業推進

- ・平成 30 年 7 月、生産部に働きかけて選果場の地区支部長会で県事業の「戦略的スーパー園芸団地整備事業」の説明会の開催を打診したが、反応がある地区はなかった。
- ・平成 30 年 12 月の集落総会で事業説明できるよう稲吉集落の選果場役員に働きかけ、年末の集落総会で近年の梨を取り巻く環境(新品種の概要、販売の状況、稲吉の果樹の現状、県の果樹事業)を説明して団地入植者を募集した。
- ・平成 30 年 2 月、入植について関心のある人に集まってもらい、事業内容を詳しく説明した。集落から 8 名の参加があった。
- ・平成 31 年 4 月に最終的に希望者を取りまとめた。7 名の入植希望者があった。(その後 1 名追加希望があり最終的に 8 名が入植することとなった)。



写真 2 集落総会での説明会 ('18.12.23)

## (4) 稲吉集落、関係機関との連携と調整

普及所は集落への働きかけだけでなく関係機関との連携や調整を行いながら事業を進めてきた(表 1)。

集落への説明会は JA 鳥取西部とともに活動した。

入植希望者が集まってから、振興局内の生産流通担当、地域整備課、米子市とも連携して「農地耕作条件改善事業」で取り組むよう進めた。

調整等の結果、JA 鳥取西部が事業

表 1 主な活動の経過

年月日	会議名等	概要
H30/07/10	旧米子選果場支部長会	「戦略的スーパー園芸団地整備事業」(県)の説明と各地区での取り組みの打診
12/13	稲吉集落の年末総会	梨の現状と事業の説明
H31/02/20	関心のある人への説明会	
04/23	入植希望者取りまとめ	
R1/06/28	JA, 米子市、西部農林局協議	「戦略的スーパー園芸団地整備事業」(県)から「農地耕作条件整備事業」(国)への変更について
07/24	事業説明会	事業内容の変更、事業主体(JA)の決定を伝える
09/13	土地改良区への説明	灌漑用水の活用について
R2/05/12	事業説明会	スケジュールの確認と灌漑用水の説明
今年度	測量設計	
来年度	整地、施設、植え付け	

主体となって事業を進めることとなった。

また、灌漑用水の整備のため、外部団体の大山山麓地区土地改良区連合、淀江土地改良区、(公財)鳥取県農業農村担い手育成機構等との連携と調整を行った。

### 3 具体的な成果

表2 事業の概要

品種	面積 (a)	備考
新甘泉	49	廃園106a 既存園15a
王秋	39	
夏さやか	11	全園ジョイント・網掛け栽培
おさゴールド	8	
二十世紀	6	新規就農1名
甘太	5	退職前就農予定者2名
幸水	3	既存農家5名
合計	121	計8名

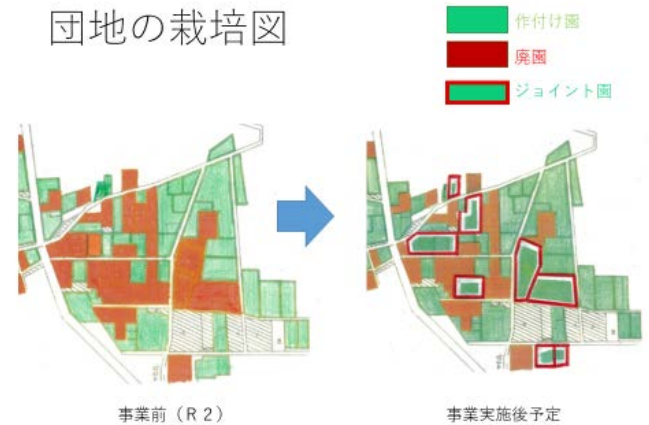


図1 大蓋梨団地の果樹園再生

- (1) 入植者の確保：新規栽培者3名を含む8名が取り組むこととなった(表2)。
- (2) 新品種の推進：新品種「新甘泉」を中心に各自の経営内容に合わせて品目を選定し、7品目を導入することになった(表2)。
- (3) 梨団地の再生：新品種を中心としてジョイント・網掛け栽培で団地内の果樹園1.2ha(農地1.5ha)の再生に取り組むこととなった(図1)。
- (4) 事業を「戦略的スーパー園芸団地整備事業」(県)より更に高率の「農地耕作条件改善事業」(国)で団地再生に取り組み、灌漑用水の整備も行うこととなった。

### 4 今後の普及活動に向けて

#### (1) 植え付け初期からの栽培支援

- ・令和3年度12月植え付けに向け、事業の進捗管理について関係機関と連携して進めていく。
- ・入植予定の栽培者に対して栽培前の技術習得機会をつくり、ジョイント栽培のポイント等の理解をすすめる。
- ・多品種のジョイント・網掛け園としてモデル団地となるよう栽培管理指導を行っていく。

#### (2) 他地区での取り組みへの働きかけ

- 稲吉地区の取り組みを手本として他産地にも働きかけを行う。
- 特に退職前の就農希望者の掘り起こしを中心として生産部、JA、町と連携しながら廃園跡地の有効利用を進める。

(執筆者： 高濱俊一)